学校評価シート（５年度版）

東海市立平洲中学校

住　　所　東海市富貴ノ台五丁目１８１番地
電話番号　052(601)2740　　児童/生徒　418名
校 長 名　尾﨑　正明　　16学級（内　特支３）

○ 教育目標　・「自学」「礼節」「先施」

○ 教育方針　・自ら学び、考え、行動する生徒の育成（「先施の心日本一」の学校を目指した教育活動を全力で推進）

○ 目　　標　・中学校３年間で生徒自らが行う進路設計

資料等

中期目標	今年度の目標	評価方法（アンケート項目）	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 実施日：令和６年２月９日	来年度の改善策（誰が何をどうする）	資料等
ア 「先施の心」育てから活気にあふれる学校づくりの推進	①校訓「礼節」を基本にした気持ちのよい挨拶と規律ある授業を実践する。 ②生徒会活動等を核にリーダーの育成とともに活気にあふれる学校づくりを行う。 ③積極的な体験活動の推進を通して、自らを高め、「先施の心」を体感させる。 ④「特別な教科道徳」を充実させ、正しい価値観で行動できる生徒の育成、心遣いや思いやりにあふれる生徒の育成を日々の教育活動で実践する。 ⑤教職員自らが率先垂範・師弟同行の精神で、常に笑顔で元気あふれる模範となる。	① 生徒24、31、32、40 教師06、08、12、13、17 保護者12、15 ②③ 生徒25、36、41、44 教師15、27 保護者17 ④ 生徒28 教師18、21 保護者03、04 ⑤ 教師01、04、12	①挨拶については、教師の9.5割が「毎日率先して生徒と元気よく挨拶している」と答え、昨年度よりも増加した。生徒は、学校でも家庭でも挨拶している割合が増えた。また、昨年度に引き続き、教師も生徒も時刻を守って行動できているとの回答がほとんどであり、学校全体として規律を守って過ごすことができているといえる。保護者の「あなたの子どもは、学校のきまりや約束事をしっかり守っている」の設問では、8.5割と昨年度と変わらなかった。 ②③学校行事で活躍できたと感じている生徒が増え、７割となった。係の仕事に対する責任感も増加しているとともに、ボランティア活動への参加も増加した。教師の「こんな学校にしたいという自分なりの理想像もって努力している」の設問では9.5割が肯定的に答えており、よりよい学校にしたいという意識が高まっている。 ④教師の「教育相談を充実させ、いじめ等の生徒の悩みに適切に対応している」の設問については、９割が肯定的ある。生徒は８割程度が肯定的な回答をした。保護者は４割程度が肯定的、「分からない」が3.5割存在し、否定的な回答が２割と増加した。 ⑤「平洲中学校は誇れる学校である」と肯定的に答えた教師が9.5割、「豊かな表情を心がけて授業している」と肯定的に答えた教師は９割だが、その中の「よくあてはまる」は２割ほど減少した。	挨拶への意識は年々高まっている。引き続き、執行部や委員会などの活動を中心に、学校全体がより元気に気持ちのよい挨拶ができるようにしていきたい。また、規律を守って落ち着いて生活できていることを称賛しながら、現状を維持できるように努める。 新型コロナウィルス感染症の５類移行により、さらに教育活動が幅広く行えるようになった。生徒の活躍する場も増え、充実感が上がってきている。教員の、生徒一人一人が活躍できる場を設定したいという思いは強いため、今後も更に活動を活性化していけるようにしていく。ボランティア活動については、校内、地域ともに参加する機会が増えてきた。生徒が積極的・かつ意欲的に参加することができるような働きかけを、生徒からも発信していけるとよい。 道徳の授業や日々の生活指導を通して他を思いやることのできる生徒を育てるために、互いに道徳の授業を参観する機会を設けて授業力を高めたり、生徒同士がよいところを認め合えるような雰囲気づくりをしたりしていく。そのためには、教師が表情豊かに、笑顔で元気あふれる存在であれるよう意識していく。	挨拶は、よくできていると感じる。下校中に出会うと道を譲ってくれるなどしてくれ、気持ちがよい。 積極性があまり感じられない。生徒の積極性を引き出すような工夫があるとよい。 ボランティア参加については今年度よりＱＲコードを使って各個人で申し込む形となっているとのことで、生徒自身が興味をもったボランティアに進んで参加しているのがよい。 教師が元気でいることは、生徒の元気につながるため、ぜひ先生方には健康に気を付けていただきたい。	個々が活躍できる活動が充実するよう、生徒の実態をつかんだ上で学校行事の企画・運営をする。その際、より積極性を引き出せるような工夫を取り入れるようする。 より多くの生徒が興味をもって進んでボランティアに参加できるよう、担当職員が中心となって斡旋事業主と連携しながら、募集を進める。委員会からの発信なども含め、生徒が主体的に参加を促せるようにしていく。 教師が心身共に健康でいられるよう、互いに声をかけ合いながら、チーム平洲として教育活動に当たり、活気あふれる学校づくりを目指す。	
イ 「生きる力」を育み、新しい時代に必要となる資質・能力の育成	①「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善を実践する。 ②生徒が自学のできる学習環境づくりの充実を図る。 ③ユニバーサルデザインや合理的配慮の視点を組み入れ、生徒が分かる・できる喜びを感じる学習の場の充実を図る。	① 生徒03～23、26 教師02、03 保護者18 ② 生徒01、35 教師14 保護者16 ③ 生徒02 教師02、05、19、20 保護者02	①②③ 全体的に見ると、授業が「楽しい」と答えている生徒が７割、「分かる」と答えている生徒が8.5割と増加しているが、教科によって異なる。また、授業中の話し合い活動で積極的に発表している生徒も増えたが、６割程度である。教師の「楽しい・分かる授業を実践しているか」の設問について肯定的に回答した割合は昨年度より減少し９割をきった。保護者の回答は肯定的な回答が増加したが、６割程度にとどまっている。家庭学習が身に付いているかどうかの設問において肯定的に回答した割合は、教師が８割程度であったが、生徒・保護者ともに５～６割だった。	教師は、学びの定着につながる授業を目指し、ＩＣＴ機器を活用しながら話し合い活動や振り返りを行わせながら、分かる授業づくりに努めてきた。その結果、楽しい・分かる授業につなげることができたと考えられる。しかし、主体的・対話的で深い学びとなっているかについては課題が残る。個別最適な学習と協働的な学習を融合させた、自主･自発的な授業を展開できるよう研鑽していく。 家庭学習への取組については、一人一人が主体的に取り組むことができ、かつ効果的に力を伸ばすことができるよう、個に応じた課題の設定に努める必要がある。	「学び合う」という授業形態を羨ましく思う。対話しながら深い学びにつながるような指導の工夫を引き続きお願いしたい。 生徒それぞれがもっている力を生徒自身が把握し、それを最大限に発揮できるよう、自主的に学んでいけるとよい。 家庭学習については、保護者に協力を求めながら、生徒が主体的に取り組めるよう工夫が必要である。	タブレット端末をはじめ、ＩＣＴ機器を有効に活用することができるよう、引き続き現職教育で研修を行い力量を高める。特に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業改善に力を入れる。 生徒それぞれが、自身のもっている力を把握し、各々に必要な学びを自覚した上で、主体的に学習に取り組めるような働きかけをする。	
ウ 「生徒自らが行う進路設計」を支援する発達段階に応じた個の指導の充実	①生徒一人一人が自信をもって進路設計ができるよう、生徒の成長段階に合わせ、計画的･系統的にキャリア教育の推進をする。 ②生徒一人一人に、どのような資質・能力の育成を図るかを考え、心に寄り添う生徒指導を行い､生徒が安心できる環境を整える。 ③発達段階に応じた資質･能力を育成する視点に立ち、特別支援教育を核に据えた個への指導の推進を図る。	① 生徒38 教師29 保護者20 ② 生徒29、37 教師07、11、16、18 保護者04、05、08 ③ 生徒37 教師28 保護者21	①キャリア教育の充実に関する設問への肯定的な回答は、生徒が６割、教師が９割、保護者は3.5割となっている。保護者の「分からない」という回答が４割程度ある。 ②学校が楽しいと感じている生徒は7.5割だが、全くあてはまらないと答えた生徒の割合がやや増加し0.8割ほどいる。「先生は、私ががんばっていることを認めてくれる」は８割、教師の「個々のよさを認め適切に評価している」は9.5割だが、その中の「よくあてはまる」の回答が３割減少となった。「いじめ等の生徒の悩みに適切に対応している」と答えた教師は9.5割だが、保護者の「学校はいじめ等の問題に対して丁寧に対応している」に肯定的であるのは４割にとどまり、「分からない」が3.5割ある。また、「本校の職員は相談しやすい」の設問に肯定的に答えたのは７割と昨年度と変わらないが「全くあてはまらない」の回答がやや増加した。 ③教師の個に応じた指導について肯定的な回答は9.5割と高い。また、自分のがんばりを認めてくれていると感じている生徒の割合は８割である。しかし、保護者で肯定的に回答しているのは昨年度よりやや減少し５割であった。	キャリア教育に関する取組について学校からの発信量が少なく、保護者に伝わっていない状況が続いている。引き続き学校だよりや学年通信、ホームページ等を活用し、学習内容や学習状況を伝える機会をもつとともに、授業や出前授業等の参観を促すなどして発信する必要がある。 いじめ等の生徒の悩みへの対応は、定期的な教育相談や各種アンケートから把握するとともに、日々の情報交換を一層密にし、学校全体として組織的に対応していく。また、生徒の一人一人のがんばりに目を向け、そのがんばりを生徒だけでなく保護者にも伝えるようにしたい。引き続き、生徒や保護者にとって相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、日々の連絡等をしっかりと行っていくようにする。	キャリア教育がどのようなものであるか、よく分からない保護者も多いのではないか。以前行っていた職場体験はいい経験であった。中学生の段階では、将来に向けてまだイメージができない生徒も多いと思われる。さまざまな職業の方の話を聞く機会があるとよい。 「人生の楽しさ」をぜひ教えてあげてほしい。勉強することに加えて、趣味も人生設計の一部であることを伝えられるとよい。	さまざまな職業について知る機会を多く設定できるとよい。学校だよりやホームページで、キャリア教育に係る取組や授業の様子等を発信していく。授業や出前授業の参観も呼びかけていく。 個々の抱える問題をしっかりとつかみ素早く対応するため、日々の情報交換を密にし、学校全体で共有する。必要に応じて対策会議を開き、効果的に指導が進められるようにする。	
エ 「チーム平洲」としての連携の推進	①「チーム平洲」として、職員間や小中間の組織的連携を重視するとともに、生徒、保護者、地域や各機関担当者等、相手を慮る丁寧な言葉遣いと誠意のある行動を意識する。 ②事故や事件、風水害、火災等が発生した際に、迅速かつ組織的に行動できるよう教職員一人一人が危機管理意識とスキルを携える。 ③性的マイノリティやハンディキャップ等を抱えた生徒の心に寄り添うとともに、職員間で情報を共有しながら、人権に配慮した指導体制を築く。 ④学校ホームページや学校だよりを活用して、教育活動の様子やその成果を継続的に情報発信し、家庭や地域との信頼関係や協働体制を築く。 ⑤「分かる・できる授業」を展開するため、また、各々の校務分掌を遂行するために、教職員自身が心身の	① 教師09、24、26 保護者07、10、19 ② 教師11、24 ③ 生徒27 教師16、18、24 保護者04 ④ 生徒45 教師10 保護者06 ⑤ 教師23、25、27	①② 教師の、問題発生時の解決に向かう姿勢や、保護者や関係機関への丁寧な対応については、どちらも９割程度で意識は高い。保護者の学校行事への参加については、７割程度が肯定的であるが、「あまり当てはまらない」の回答が１割増加した。 ③生徒の「困ったときに相談したい先生がいる」の肯定的な回答がやや増加したものの5.5割にとどまっている。生徒との絆づくりに努めている教師は9.5割となっている。 ④３割程度の生徒が学校からの配付物をきちんと保護者に渡していない状況にあり、昨年度とほぼ同比率であった。ホームページやたより等で情報を積極的に知らせている教師は８割、保護者の知りたい情報が得られているという回答は1.5割増加したが、否定的な回答が１割ある。 ⑤「こんな学校にしたい」という理想像をもって努力している教員は10割近くなり増加した。校務分掌の仕事を工夫・改善しながら進めることができている教師は減少し、8.5割となった。	年度初めに、問題発生時における対応について、学校全体でしっかりと共通理解しておき連携を図ることができるようにしておく。朝の打合せや生徒指導部会などでも繰り返し確認し、全ての職員が常に高い意識をもって対応できるようにする。 丁寧な対応については、保護者や外部機関に対してはもちろんのこと、職員間においても互いに思いやりをもった関わりを心がけるようにし、学校全体が温かい雰囲気になるよう努める。教育相談の充実については、質の高い働き方を進めることで気持ちにゆとりをもち、生徒の表情に目を向けられるようにしていく。 情報発信については、日々の教育活動が分かりやすく伝わるよう、内容を精選しタイムリーに発信していく。また、保護者が知りたい情報を得られるよう、どのような情報を知りたいかについて意見を吸い上げ、より充実したものになるようにする。	ブログがコンスタントにあげられていてよい。安心につながるため、今後も続けてほしい。 学校からの案内等がｅメッセージで配信されるようになり、確実に届くのでよいという声を聞いている。 問題発生時の対応については、職員が連携しチームで解決することが大切である。研修会などを通して、さらに意識を高めてほしい。	学校生活の様子を毎日コンスタントにブログで知らせ、教育活動についての理解を促す。日々の授業の様子はもちろん、学年の取組や委員会の活動なども知ってもらえるようにする。その際、職員の負担が大きくならないよう考慮する。 学校全体でチームとしての意識をもって素早く問題発生時に対応していけるよう、日常的な情報交換を一層しっかりと行っていく。引き続き、現職教育で研修を行い、意識を高める。	